

階

【きざはし】

～社会科教育を考える～

No.50

2024年1月



池上彰のインタビュー
今回は 野村 萬斎 さん

- 池上彰のインタビュー⑤0
自分の生を証明し続ける狂言の道 2
野村 萬斎 狂言師
- わたしの一里塚
和紙の種を蒔く 8
谷野 裕子 手漉き和紙 たにの 主宰
- ここに教育あり
起郷家教育の推進
～全市で取り組むキャリア教育体系～ 10
橋本 勝 静岡県牧之原市教育委員会 教育長
- 社会と教育の架け橋
「アンコンシャスバイアス」に気づくことの大切さ
～子どもたちの可能性が広がることをめざして～ 12
守屋 智敬 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事
- 異国日本の地に立って
日本での学びをスリランカの未来へ生かしたい 14
ウヤン ヘーワージー ミヌラ ギトゥマル ジナダーサ
公益財団法人 守屋留学生交流協会 第11回倉敷市守屋奨学生
- 子どもと、ともに
「伊敷長なす里帰りプロジェクト」を通して
郷土を愛する心を育む 裏表紙
鹿児島県鹿児島市立玉江小学校
- 資料
空から京都を見てみよう

子どもと、ともに (裏表紙掲載)

今回は鹿児島県鹿児島市立玉江小学校の取り組み



6年生から引き継いだ苗を
心を込めて植えました。

帝国書院

池上彰の インタビュー vol.50



自分の生を証明し続ける 狂言の道

代々続く狂言師の家に生まれ、3歳から狂言や能の舞台で活躍してきた野村萬斎さん。一方、シエイクスピアなどの演劇、大河ドラマや映画など、狂言以外にも活躍の場を広げています。狂言という古典芸能の世界で自身が向き合ってきた葛藤も交えながら、スポーツや教育の世界とも重ね合わせ、狂言師という生き方についてお話しくださいました。

このインタビューは、2023年10月に収録しました。



撮影 吉永考宏

狂言師 の むらまんさい 野村萬斎

1966年、東京都生まれ。狂言師。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。東京藝術大学音楽学部卒業。重要無形文化財総合指定保持者。「狂言ござる乃座」主宰。狂言・能の舞台はもとより、現代劇や映画、テレビドラマへの出演、古典の技法を駆使した作品の演出など、日本のトップランナーとして国内外で幅広く活躍。『MANSAI◎解体新書』（朝日新聞出版）、『狂言サイボーグ 増補新版』（筑摩書房）、『野村萬斎 What is 狂言? 改訂版』（檜書店）など著書多数。2021年より石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。

★野村萬斎主宰「狂言ござる乃座69th」3/29（金）19時・31（日）14時
国立能楽堂にて開催。問合先：万作の会（<https://www.mansaku.co.jp>）

なま 生の舞台の魅力

池上 新型コロナウイルスによる感染拡大の影響で、劇場にもさまざまな影響があったかと思います。現在はどうな状況ですか。

萬斎 ほば元に戻りました。特に地方では、今まで外出を自粛していた方が公演を待ち望んでくださっていたようで、たいへん歓迎されます。これからはぜひ若い世代にも足を運んでいただきたいですね。

池上 外出が難しい時期には、萬斎さん主宰の「狂言ござる乃座」でも、公演をオンラインで配信していましたね。

萬斎 オンライン配信も致し方ない状況でしたが、劇場で行われる古典芸能も演劇も、本来は「ライブパフォーミングアーツである」と、私は声を大にしていきたいと思います。生身の人間が演じ、お客様に生でご覧いただく。生きることについて考え、生きていくことの喜びを実感していただく。それこそが我々の使命です。

私は2021年より全国公立文化施設協会の会長も務めておりまして、オンラインにはない劇場の素晴らしさも皆さんにお伝えしたいと考えています。皆さんが集い、大勢で喜んだり悲しんだりすること、そこに大きな意味があります。今ふと思いました、家庭教師をつけて勉強すること、学校で学ぶことの違いにもつながるかもしれませんね。

池上 たいへん興味深いですね。家庭教師と学校、一体何が違うのでしょうか。

萬斎 まず注目するのは、個別と集団の違いです。たとえば我々の稽古に置き換えてみると、玄人の稽古は個別に行いますが、カルチャーセンターなどの



ジャーナリスト
いけがみ あきら
池上 彰 (聞き手)

1950年、長野県生まれ。ジャーナリスト。名城大学教授。慶應義塾大学卒業後、73年、NHK入局。報道記者として勤務。94年から11年間、「週刊こどもニュース」で子どもたちにわかりやすくニュースを解説。2005年、NHKを退局。『池上彰の君と考える戦争のない未来』（理論社）、『池上彰の社会科教室』（帝国書院）など著書多数。本誌の対談を集録した『池上彰が聞いてみた「育てる人」からもらった6つのヒント』（帝国書院）も好評発売中。最近はロシアの脅威にさらされているモルドバと、ヨルダンのパレスチナ難民キャンプを取材。

人間の多様性を知る

萬斎 そしてもう一つ、集団を見ると、人間は多様だということがよくわかります。稽古でも、同じように構え、腕の角度を同じにしているはずなのに美しく構えられないことがあります。関節の使い方、バランス感覚などは人によってまったく異なりますし、腕や足などパーツの寸法も違います。私の整体の先生は、重心の取り方も4つのタイプに分かれると言っています。

池上 4つのタイプですか。どのように分かれるのでしょうか。

萬斎 重心が前から後ろか、外か内か。2×2の組み合わせで4タイプに分かれます。たとえば、イチロー選手は前重心なので体の前でボールをさばくのが上手い。松井秀喜選手は後ろ重心なのでボールを引きつけて腰の回転でホームランを打つそうです。

私もこのことを10年ほど前に知ったのですが、この知識を持って身体を見ると、身体の個性は人それぞれずいぶん違うことに気がきます。幸い、父と私、そして息子は3人とも同じタイプで、後ろの外重心なので教えやすい。しかし、重心が違えば同じ動きをしているつもりでも動きがまったく変わってしまいます。

私たち狂言師は、どうしたら揺れずに歩けるかを考えるのですが、それには常にベクトルを意識して力の釣り合いの中で構えるのです。前重心の人は後ろに、後ろ重心の人は前に意識を持たせます。

池上 自分の重心のタイプを知ることまた、おのれを知ることなのですね。

萬斎 もちろんです。新体操でも重心の取り方が同

講座は集団で行います。個別なら細かい点を指導できますが、人数が多いとそうはいきません。

池上 集団の時はどのようにされるのですか。

萬斎 まず、全体に対して「狂言の基本の動きはこうです」と自らやってみせます。しかし、見るだけで全員が同じように真似はできませんし、一人ひとりに細かく指導することも難しい。そこで、できている方は「いいですね」と確認して、できていない方には個別に指導していきます。それでもすべての方にお伝えすることはできません。

ただ、個別だと自分を客観的に見ているのは先生だけですが、集団なら自分が直接指導されなくても、ほかの方を客観的に見て学ぶこともできるというメリットがあるでしょう。

池上 それは大きいですよ。確かに、ほかの人がどこを直されているのか参考にできますね。

萬斎 狂言のように何もない裸舞台で演じるときには、自分がどのようなフォームで立ち、どのような声をどこから出しているかを知ることが大切です。世阿弥が言うところの「離見^{りけん}の見^{けん}」、つまり幽体離脱して自分を見ているような客観性を身に付ける必要があります。自分の「こうしているつもり」と「実際にそうになっている」が合致すると、名人に一步近づけるわけです。

池上 なるほど、集団で学ぶことを基本とする学校では、集団での狂言の稽古と同じように、ほかの子どもたちのなかで自分を客観的に見ることができそうですね。

狂言師として舞台に立つことで、

生きる実感を得られる

じタイプの人を集めるとも聞きます。

池上 同調性を競う競技では重要な視点ですね。

萬齋 能や狂言は流儀によってそれぞれ特徴があるのですが、面白いことに、結果的に同じ流儀には同じタイプの人が多く集まっています。

重心を意識して身体をうまく使えば、かけっこも速くなるそうですよ。速くならないのは、自分の身体に合った走り方をしていないからです。そう考えると、たとえば先生が、自分が上手くいったやり方で子どもたちに教えても、自分と違うタイプの子はなかなか上達しないでしょうね。

池上 身体の動かし方にしても勉強の仕方にしても、先生が指導するときに、自分と生徒との違いに自覚を持つことは大事でしょうね。「この子が伸びないのは、私とはタイプが違うからかもしれない」と気付くことで、その子に合った指導ができるようになるでしょう。それにしても、萬齋さんはスポーツまですたいへん詳しく研究されているんですね。

萬齋 スポーツも含め、ほかのジャンルに精通している方が内なる宇宙をどう感じているかはとても参考になりますし、狂言とも深い部分で通じるところがあるように思います。

池上 内なる宇宙というのは、実際の外なる宇宙に対して、心身の中に広がる宇宙のことですか。

萬齋 はい。我々は「面」をつけるとほぼ視界を遮られます。視覚だけに頼っていると平衡感覚がかな

り落ちてしまうんです。

池上 つまづいてしまいそうですよね。

萬齋 ですから、我々はすり足をして歩きます。なるべく安定して歩くため、床の状態を知るために、すり足で歩くのです。そのとき、内なる平衡感覚を頼りにするのですが、これはヨガと同じだと言われたこともあります。瞑想状態は内への意識に集中することですから、確かに同じかもしれません。こうして違うジャンルについて知るたび、人間の体内は深い小宇宙なのだ改めて思い知らされます。

サイボーグとして狂言師を生きる

池上 伝統芸能は受け継がれていくものです。野村家に生まれたゆえに狂言の道を行かねばならぬことに對する葛藤や反発、あるいは諦観のようなものはありましたか。

萬齋 「なぜ狂言をしなければいけないのか」と、あるドキュメンタリー番組で息子（裕基氏）が僕に問いかけたとき、私は「わからない」と答えました。これはもう、本当によくわかりません。気が付いたら狂言をさせられていた。そのことについては、『サイボーグ009』にたいへん共鳴しましたね。

池上 サイボーグとは興味深いですね。石ノ森章太郎さんの漫画ですね。どのようなところに共鳴したのですか。

萬齋 彼らはある日突然、サイボーグとしてつくり

変えられます。人間としてのアイデンティティを持たず、戦闘員として生かされている。彼らが「生きていてよかった」と感じるのは、戦っているときだけです。戦闘員として活躍することで、人間なのに半分機械になってしまっているという不条理な状況をようやく肯定できます。

池上 狂言師であることは、そのサイボーグに通じるところがあるということですか。

萬齋 サイボーグとなった彼らのように、気付いたときには狂言師になっていて、狂言をやり続けなければならぬからです。狂言師は、いにしえの祖先たちが積み上げてきた「型」デジタルに仕上がったプログラム」をコピーすることを強要されています。私はそれを「プログラミング」と呼びますが、その正解は私の場合、父にしかありませんでした。なぜ父の言った通りにしなければいけないのかと苦しんだこともありました。しかし、そういう訓練をして舞台に立つと、自分は何が面白いのかわからないけれども、お客さまは喜んでくださる。

池上 それが何よりのご褒美ですね。

萬齋 中高生の頃は、反発してミュージシャンになりたいともありましたが、私にプログラミングされたアプリの中でいちばん武器になるのは、「狂言」だと、はたと気が付きました。狂言師として舞台に立つことで「ああ、生きていてよかった。狂言をやっていたよかった」と実感し、狂言師であることを肯定される。その舞台がつまらないと批判されれば、しだいに生きていく実感や存在意義がなくなってしまうでしょう。

広く捉えればこれは、すべての人にあてはまるかもしれません。この世に生まれてきた自分自身を肯



狂言「二人大名」 野村万作・萬斎（右）・裕基（2023年）
撮影・政川慎治

定するためには、身に付けた能力で周りの人に喜んでほしい、「生きていてよかった」と証明し続けなければなりません。そのためには、生きる実感を得られることを毎日やり続けていくことが大切だと思います。

池上 それは子どもたちにも言えそうですね。「生きていく実感がない」という子どもは増えていると思います。そういう子どもたちにはどんなことが必要なのでしょう。

萬斎 その時々で生きている実感を得ることも大切ですし、この先にも、もっと生きていて楽しい時間があるという希望をもてるかどうかでしょうね。狂言という世界は不思議なことに、基礎がしっかりしていれば歳を取るほど芸が極まっています。父が芸道を極めていくのを見るにつけ、「私もこういう境地を目指すんだな」とわかる。今私は50代ですの

自分をさまざまな座標軸に置くことで、 狂言の世界を客観視できる

で父よりも体力はありますが、歳を重ねていく父を見ると楽しみにもなるのです。もちろん年齢とともに体力は無くなっていますが、味わいとしての人間の存在感という点では、まだ父にまったく追いつきません。

池上 お父様の野村万作さんは、今92歳でいらっしやいます。文化勲章も受賞されましたね。

萬斎 はい。父を見てみると、いつかプログラミングされた型を凌駕して、個性や自分の人生観が出てくるのだと信じられます。サイボーグ化された金属部分を本当の肉が覆ってしまえば、人間の存在としてパーフェクトになっていく。それが本当のパーフェクトかどうかはわかりませんが、サイボーグであることを忘れる。父を見てみると、そういうことが見えてくるのです。私は、そういう意味で「まねる、まねぶ、まなぶ」という言葉の意味を改めて捉え直しています。

池上 今の子どもたちにも、そのようなことを感じられる存在が身近にあるとよいのですが。

狂言師としての腹が決まったイギリス留学

池上 萬斎さんは狂言以外にもさまざまなことに挑戦をしてこられました。その経験もまた、すべて狂言に生かされているのでしょうか。

萬斎 狂言ばかりをしていると、映画や舞台などいろいろな世界にも挑戦したくなります。「狂言は果

たしてジャンルとして成立しているのか」「狂言というプログラミングアプリを備えつけた人間は芸術的に優れているのか」を確認するためにも、自分をさまざまな座標軸に置いてみたくなるのです。

池上 そうすることで客観的に狂言の世界が見えてくるということですね。90年代にはイギリス留学でシェイクスピアの世界も体験されました。

萬斎 イギリスにいた1年でアイデンティティを確立し、自分の生き方に腹が決まりました。

池上 シェイクスピアの劇もそうですが、イギリスでは言葉をとにかく大切にします。私は、日本とはずいぶん違うと感じましたが、萬斎さんはどのように感じられましたか。

萬斎 確かに、シェイクスピアは言葉の演劇です。英語では「オーディエンス、聴衆（＝耳で聴く客）」、日本語では「観客（＝目で見る客）」と、表現が異なることも象徴的です。とはいえ、シェイクスピアの作品も古典ではありますが、かなり自由にアップデートされることがあります。イギリスには、たとえばジュリアス・シーザーをフセイン大統領に、ギリシャ悲劇のオイディプスをブッシュ大統領に置き換える演出などもあり、自由なアレンジに驚きましたね。

池上 狂言においても現代ならではの演技や演出は意識されますか。

萬斎 もちろん意識はしますが、表現方法が異なっ

でも芸術というものが目指すところは同じだと思えます。いかにいきいきと人間を描けるかに芯を置かなければだめだと思っています。父からも、そのように教わってきました。

狂言というメソッドはありますが、型を見せることだけを目指しているわけではありません。昔からあるメソッドを使いながらも、その上で、人間を描写できるのは狂言こそだとも思うのです。人間が喜ぶもの、人間が美しいと思うものを表現するために狂言をやる。父が折に触れ厳しく言う言葉に「狂言も美しくあれ」があります。そこを押さえれば新しい演出も可能です。

池上 映画などではまた違う発見がありましたか。

萬齋 映画はとても面白いですね。出演したとしても年に1本が限度ですが、実は、映画のほうが楽しいんじゃないかと思っていた時期もありました。狂言は素手の芸ですから自分の演技ですべてを表現しなくては いけません。一方で、映画は人数でつくりますから、大掛かりなことができますよね。自分の演技に音楽、映像、編集を加えると予想を大きく超えることができます。

池上 萬齋さんは今50歳代後半ということで、まだまだ成長し、奥義を極められる可能性を感じます。これから先、どのようなことをお考えですか。

萬齋 もうすぐ還暦のわりにはまだ若い気でおりますが、父が元気で一門の稽古もやってくれているうちに、なるべくいろいろなことをやっておきたい。これは息子にも望むことですが、ルーティンワークにならずに、一期一会という精神で、演じる楽しさを自分自身で毎日紡いでいくような姿勢でありたいですね。そのときそのとき一生懸命、舞台をやるし

子どもの個性を伸ばすためには、 まず表現する「型」の習得が必要

か我々の生きる道はないとも思っています。

シェイクスピアを始め現代劇に携わった世田谷パブリックシアターの芸術監督、NHKの「にほんごであそぼ」など、20年間続けてきたことからここ数年で卒業しましたので、新たな勉強も始めたいと思っています。2023年はオペラを初めて演出しましたし、WOWOWで短編映画も監督しました。石川県立音楽堂の邦楽監督もしていますので、オーケストラとのコラボレーションなどにもチャレンジしたいと考えています。

池上 やがて息子さんがライバルになりますね。

萬齋 そうなることを望みます。2023年は息子が『ハムレット』にも挑戦し、また、『鬼滅の刃』を能と狂言の様式でやりました[※]。特に『鬼滅の刃』は、たいへん人気がありました。能楽堂があふれかえるほど観客が入りましたね。

池上 『鬼滅の刃』は漫画やアニメの世界なので、コミカルなところも多く、狂言との親和性も高いでしょうね。

萬齋 鬼を鎮めるストーリーも能と非常に似ています。そうした新しい分野に挑戦すると、「この型の本質は何か」を問い直すきっかけにもなります。

池上 なるほど。息子さんが力をつけて人気が出てくると嫉妬という感情は生まれませんか。

萬齋 文化・芸術としてアップデイトしながらつなげていく古典芸能ですから、息子という後継者を育

てていくことで私も生き残ることができるわけです。もちろん息子はライバルでもありますし、いつか嫉妬もするとは思いますが、嫉妬させるほどのところに来てみる」とも思っています。

池上 なるほど、まだまだ負けないぞ、ということですね。

萬齋 先ほど「離見の見」というお話をしましたが、これがまた不思議なことに、自分が稽古をつけた息子や弟子がいることで、自分のことを本当に客観視できるようになりました。息子や弟子は自分の分身でもあるように思います。自分の芸のDNAをインプットしているということなのでしょうね。

「わからない」状態をそのままに受け入れる

池上 お話を聞いていると、教育の世界にも相通ずるところがあると思います。

萬齋 そうですね。狂言の世界は教育につながるところが多々あると思います。ここで一つお伝えするとすれば、子どもの個性を伸ばすためには、まず表現するための「型」の習得が大事なのではないかということです。型を通じて表現をしている私などからすると、自分の感情や思いを表現する方法をまずは知り、それができるようになれば、あとからその子だけがもつ個性が育ってくるのだと思うのです。

池上 狂言は、個性よりもまず先に型を叩き込まれ、「個性などいらない」という世界ですね。

わからないことを自ら探究すること、 さまざまな回路がつながっていく



萬齋 狂言の場合は極端かもしれませんが、個性という言葉でごまかしてしまうのではなく、まずは自分の感情を表現する型を身に付けることが大事なのではないでしょうか。

池上 そういう意味では、学校では基礎的な知識をしっかりと身に付けることが大切ですね。

萬齋 そこからどうアレンジしていくかが、個性—その子の資質や好き嫌い—になっていくのではないかと思います。

また、いま世の中では「わからない」とさ
とはよくない」とさ
れているように思
いますが、これには疑
問を持っています。

池上 ものごとをわ
かりやすく解説して
いる私としても、そ
う思います。

萬齋 本当は、教育
においても、わから
ないことを自分で探
究して、わがろうと
することが必要な
のではないかと思う
のです。私は小さい頃

から稽古をつけられていましたので、「なぜこんな
ことをしなければならぬか」「何が違うのか」など、
教えられた当時はわからないことだらけでした。そ
こで教わったことがどれだけ有効であるかは、狂言
を続けるなかであとから自分でわかったことです。

「我慢」という言葉もいまは流行りませんし、私
も好きではありませんが、「わからない不可知な状
況」を悪とする必要は決してありません。自分自身
を振り返ってみても、さまざまな回路がつながって
くるのはずっと後になってからだと思うのです。私
など、子どもの頃は教わっていることが一体何なの
かもよくわからないままでしたし、表現だとも思っ
ていなかったんですよ。

池上 わからない状況でも、きつと何かが積み重
なっていくのでしょうか。

萬齋 私がそれをようやく認識したのは、高校生の
頃でした。黒澤明監督の映画『乱』（鶴丸役、当時
17歳）に出演させていただいたり、『三番叟』とい
う狂言の演目を演じたりしたときに、「あ、僕は表
現者だ」ということがやっと認識できた。ずいぶん
後になって、ようやく回路がつながり始めるという
こともあると思うのです。

池上 学校でも、その場ですぐに正解にたどり着く
ことや、わかりやすさが求められすぎているのかも
しれません。丁寧に説明するより、「どうしてこう
なるんだらう」と自分なりに一生懸命考える時間が

必要だと思うんですね。

萬齋 稽古では、子どもを教えるときには教える側
に忍耐が必要です。絶対にこちらが折れてはいけな
い。できるようになるまで待つことも大切です。

池上 教える側が待ちきれず、先に正解を教えたり
説明をしたりしても、本質は伝わらないでしょうね。
その点は、狂言においても学校においても同じです
よね。

萬齋 先生という職業は本当に大変な仕事ですが、
人を育て、その成長を見る楽しさはあると思います。
私もまさに息子や弟子が育つ楽しさを感じていると
ころです。子どもたちが「あんな先生になりたい」
と憧れるような世の中になることを願っています。

対談編集／太田美由紀、天然社



対談 を振り返って

以前お父様の野村万作さんにも話を
うかがったことがあります。世襲の家
に生まれ、父親がたどった道を進みな
がらも独自の活躍の場を見つける。
シェイクスピアを学んで自身を客観的
に見る。それが独自の成長につな
がる。世襲という運命を軽やかに受け
止めて自己を確立していく生き方に感
銘を受けます。

やがて息子さんも独自の活躍をしな
がら萬齋さんを追いかけてくるので
しょう。次は息子さんにインタビュ
ーできる日が来るのか。それを楽しみに
私も精進して参りましょう。

和紙の種を蒔く

主宰の和紙に
手漉きの
谷野 裕子



岡山県生まれ、兵庫県で育つ。会社員を経て、埼玉県の後継者育成事業の研修生となり、手漉き和紙職人に。学校や博物館等での指導、講演のほか、インドネシア・バリ島で産業振興のため現地の素材を使った紙漉きの技術指導、ホテル・店舗等の内装なども行う。細川紙技術保持者、埼玉県伝統工芸士、彩の国優秀技能者。

憧れから飛び込んだ手漉き和紙の世界

楮などの天然素材から一枚一枚、手で和紙を漉く仕事をしています。私の工房があるのは、埼玉県ときがわ町の豊かな水にめぐまれた山懐です。町には国宝「慈光寺経」を守り伝える開山1300年の古刹・慈光寺もあり、このあたりは昔から紙づくりが盛んでした。

職人を目指したのは30歳ごろで、それまでは東京の専門商社でコンピュータのプログラムを組む仕事をしていました。西日本で生まれ育った私がこの地で和紙と出会ったのは、仕事の都合で埼玉県熊谷市に移住し、休日、ドライブで訪れたことがきっかけです。当時はバブル景気のさなかでしたが、まだたくさん和紙工房がありました。川辺で楮を洗う

様子はまるで昔話に出てくるようなのどかな風景で、感激しました。

人の手から生まれる美しい和紙を見て「私もつくりたい！」と思いました。しかし、弟子として受け入れてくれるような場所はなく和紙の需要が減り、自分の代で終わりと心に決めているような職人がほとんどでした。その後、県を中心に手漉き和紙の後継者育成事業が行われることを知り、私は「採用してくれたら、和紙の産地に移住します」と面接で宣言し、研修生になりました。

めげずに紙漉きを続けた修業時代

会社を辞め、5年間の研修を受けても一人前になる道が保証されるわけではありません。子どもを育てながら、家計のためアルバイトや内職もしました。親の介護もあり、研修に行くこともままならない時期は焦りも募ります。でも、その中でも最大限できることは何かを考え、和紙に関係する本は何でも読み、和紙でできた工芸品の修復にもチャレンジしました。このような廻り道や試行錯誤が後になって役に立ったと、今になって思います。模索し、時間をかけたことで、逆にめげることなく続けられたのかもしれない。

研修生3年目に細川紙技術者協会から声をかけていただき、技術を学ばせてもらうことになりました。細川紙は埼玉県小川町・東秩父村を中心とした地域で古くからつくられてき

た和紙で、国の重要無形文化財にも指定されています。職人の仕事は、師匠が手取り足取り教えてくれるものではありません。昔から紙漉きの工房は住居の一部にあり、弟子はそこへ通い、なんとか手伝わせてもらう。私は師匠の仕事を見つめ、まずは真似することに集中しようと思ひ、技術を学びとっていきました。しかし、修業中は道具ひとつを手に入れるのにも苦労しました。キッチンで楮を煮て、漉き舟（和紙を漉く材料を入れる容器）のかわりに自宅のベランダにベビーバスを置いて名刺大の紙を漉くなど工夫を続け、1999年には、小さいながらも自分の工房を持つことができました。

口数の少ない師匠が亡くなる少し前、「よく頑張ったな」とぽつりと言ってくれたときには、涙が出ました。弟子入りから、もう25年くらい経っていました。

子どもたちと一緒に漉く卒業証書

書道や日本画のほか、包装や障子、襖など和紙にはさまざまな用途があります。私は既存の仕事では先輩方になわなないし、新しい使い方、これまで和紙と縁のなかった人にも届くような仕事を考えようと思いました。次の世代に技術を伝えていくため、20年くらい前からはじめた学校での卒業証書の紙づくりもそのひとつです。

毎年、道具と材料を車に積んで、若いス

写真(左): 楮は1年で3m近くまで育つ。冬、落葉後に幹を刈り取る。蒸して外皮をむき、内側の白い部分をさらに煮て叩き、繊維をほぐして漉くと、美しさと耐久性を備えた和紙ができる。写真(右): 旧都幾川村の元給食センターを再利用した工房。大きなシンクは和紙の「漉き船」になっている。奥の棚の上にあるラッパ型のスピーカーは、和紙でつくられている。



タッフと一緒にたくさんの方を訪ねています。畑で楮を育て、皮をむいて煮込んでから塵を取り除き、繊維をほぐすといった材料づくりの工程には、多くの人びとが関わる膨大な作業があること、和紙を漉くこと自体はほんの一部の工程にすぎないことなどを、まずは授業で説明します。

次に実践です。漉き舟に水、楮、トロロアオイという植物の根からつくった「ねり」と呼ばれる粘液を入れ、子どもたちは初めて手にする簀笥(すげた)という道具で紙を漉きます。自分の卒業証書になる紙をつくることから、なかには緊張して息を止め、溺れそうな顔の子もいます。幸い紙漉きはやり直しがきく。「人生と同じ。やる気さえあれば、何度でもやり直せばいい」とアドバイスしています。

また、ホテルや店舗、茶室やオフィスなど、内装の仕事も素材づくりから行います。和紙は天然素材を混ぜることで新たな風合いが生まれます。佃煮屋さんの店舗内装のためにアサリの殻入りの壁紙をつくったこともありました。間伐材で紙を漉いたり、捨てていた楮の皮から防草シートを試作したり、和紙でウェディングドレスをつくったこともあります。

1000年以上保存できるともいわれる和紙の可能性を広げていくことで、この技術を未来につなげたい。今の時代に合わせ、求め

られるものをつくっていくという「売る」ための努力をしなければ、和紙とその技術を残すことはできないと思っています。

ユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙

毎年の卒業証書づくりを続けていくには、材料を安定的に入手することも重要ですので、楮の栽培にも取り組んでいます。畑をもっている方にお話しし、地域の方に協力してもらいながら、今では1000株以上を植える大きな畑もあります。農業からモノづくり、そして商品を売るまでが、私の和紙の仕事です。2014年、私たちの細川紙は、岐阜県の本美濃紙や島根県の石州半紙とともに「和紙・日本の手漉和紙技術」としてユネスコの無形文化遺産に登録され、町を訪れる人も増えました。われわれにとっては、紙を漉く工程のひとつとつを見直し、素材づくりや環境、コミュニティのあり方をあらためて考える機会になったのではないかと思います。

先人たちは、よい紙をつくるためにどんな思いで伝統をつないできたのだろう、とよく考えます。最初は小さかった工房を大きくし、現在、元給食センターの建物を借りているのも、和紙を学びたい人が集まるラボのような場所がほしいと思ったからです。国内外の多くの方が、ここへ和紙漉きや楮づくりを学びに来ています。

学校の先生がこの工房に来られると、すぐ

にわかります。目を皿のようにして、見たもののすべてを子どもたちに伝えたいという思いがにじみ出ているからです。そのような先生とは、教室と工房をオンラインでつなぎ、紙漉きの授業をしたこともありました。

技術とともに自然や人との関わりを伝えたい

子どものころは「ドリトル先生」シリーズを読み、獣医に憧れましたが、その夢は叶わず、紆余曲折を経て、和紙の職人となりました。和紙を漉くためには、山や畑といった環境も大切であることをあらためて学び、やはり自然に触れているのが私にとって心地よく、この仕事が好きなのだ、心から思っています。毎年、高知県の四万十町に通っています。

高級和紙の原料となる雁皮(がんび)が自生しているのも大きな理由ですが、それだけではありません。高知県だけではないと思いますが、海や川で漁をする方々は山の整備にも携わると聞きます。山が豊かでないとも海も豊かにはならないからでしょう。山と海はつながっている。和紙を漉く技術とともに、そういう自然や人びととの関わりを伝えていければと思います。和紙の産地ではない地域もあるでしょうけれど、紙漉きのワークショップに参加したり、漆の食器を使ってみることで、工芸品の魅力を感じることが出来ます。自然との関わりを大切にする日本の伝統工芸のよさを、大人も子どもと一緒に体験してほしいと思います。



アースランチのポスターは、学校ごとに制作。児童が撮った写真を使い、プロのデザイナーとともにつくりあげている。

ここに教育あり

起郷家教育の推進 ～全市で取り組むキャリア教育体系～



静岡県牧之原市教育委員会 教育長 **橋本 勝**

「牧之原市の「起郷家教育」

牧之原市では現在、全市内公立小中学校を挙げて、学校間の連携のもと、キャリア教育を推進しています。牧之原市のキャリア教育のキャッチフレーズは「起郷家教育」です。「郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす」若者を育てていくことがその理念です。

本市では、市立10校の小中学校を、令和12～15年度を目途に、2つの義務教育学校に再編することとを計画しています。平成31年3月に策定した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」において、子供たちに育みたい力を「次代を切り拓く力」とし、キャリア教育を軸とした9年間の系統立てた学びの実施の方向性を示しました。第3次牧之原市総合計画において、キャリア教育（起郷家教育）の推進を重点戦略プロジェクトや政策の1つとして位置づけ、学校・地域・行政が一体となって取り組んでいます。

起郷家教育の体系と推進体制

「起郷家教育」の特徴は次の5点にまとめられます。

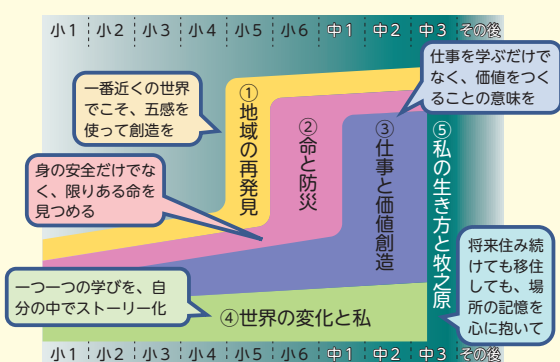


図1 起郷家教育体系図

- 育もうとする資質能力を体系化し、キャリア教育を通して計画的に育成しようとしていること
- 小学校から中学校まで一貫した連携で取り組んでいること
- 起郷家教育全体が、一貫したストーリー性のあるプログラムとして組織化されていること
- 3つのプログラム（後述①・②・③）を中核に、課題を発見・解決していく創造的な学習（PBL）に力点を置いていること
- 専門部会を設置し、大学・地域とも協力しつつ開かれた開発・推進体制を構築していること

この起郷家教育の体系は左の図1の通り「地域の再発見」「命と防災」「仕事と価値創造」「世界の変化と私」「私の生き方と牧之原」の5つの柱で構成しています。

- ①「地域の再発見」：地域について学ぶだけでなく、創造を通して地域の可能性を探り、かたちにする（試行4年目）。
 - ②「命と防災」：地域防災をきっかけにして、命の大切さや自分の生き方を考える（試行1年目）。
 - ③「仕事と価値創造」：これまでの職業学習にとどまらず、「仕事」を通して自身の生き方と価値の創造を試みる（試行2年目）。
 - ④「世界の変化と私」：児童生徒が体験して学んだことを記録・蓄積する（現在検討中）。
 - ⑤「私の生き方と牧之原」：義務教育9年間の起郷家教育をまとめ動画として表現する（今後検討予定）。
- いずれのプログラムも、現在模索の途上にあり試行錯誤を重ねています。検討に当たっては静岡大学教職大学院武井敦史教授を部会長に据え、市内学校の代表者を加えたキャリア教育プロジェクト部会を運営しています。
- キャリア教育の推進に当たっては、教育委員会が積極的にリーダーシップを発揮しつつ、各学校の状況や児童生徒の反応を確かめながら、少しずつよりよいものにしていくと考えています。本市のこれまでの取組は、「キャリア教育優良教育委員会」として、令



地域の方と稲刈り。

和4年度に文部科学大臣より表彰を受けました。

創造的PBLとアースランチプログラム

起郷家教育の中でも核となる、小学校5年から本格的に始まる「地域の再発見」「命と防災」「仕事と価値創造」の3つのプログラムは、創造的なプロジェクト型の学習として、教科横断的に推進されています。その基本的な姿勢は以下の3点にまとめられます。

- 地域活動など小さいことでもよいので社会のリアルに触れさせること
- 活動しながら内省し一人一人のウェルビーイングについて考えられるようにすること

○課題に挑戦し、失敗や試行錯誤を繰り返しながら、新たな価値を創造していくという

以下に「地域の再発見」の中心となる「アースランチプログラム」を紹介いたします。

アースランチプログラムは食をテーマにした取組で、料理の考案から食材の栽培・調達、調理、プレゼンテーションまで、すべて児童が企画・実現させる活動です。令和2年度からスタートし、本年度で4年目を迎えました。基本調味料と児童たちで栽培・調達した食材のみで、今までにない一品料理をつくるのがその課題です。アースランチプログラムは、次の①から⑦までのユニットで構成され、総合的な学習の時間のほか、各教科などで年間50時間程度で実施されています（図2参照）。

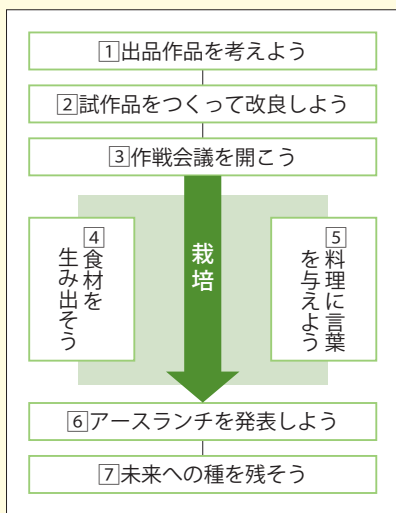


図2 アースランチプログラムユニット構成図

①では、食を題材に地域の資源を新たな視点で見つめ直し、身近な食材を組み合わせて料理を考案することにより、想像力を膨らませる楽しさやアイデアの出し方を学びます。②では試作品をつくってみて自分たちの発想のどこに問題点があるのかを見いだします。その上で、地域の大人など経験者のアドバイスを聞き、自分たちに足りないものを取り入れていきます。③では、アースランチの試作品から料理に必要な食材の分量や、それらをどのように入手するか、その構想を練ります。④からは、児童の主體的な栽培活動を開始します。休み時間など授業以外の時間を活用して食材を栽培・調達します。⑤では、プロのデザイナーの力を借りながら、ポスターやプレゼンテーションを作成します。⑥では、創作したアースランチについて、アピールポイントを盛り込んだプレゼンで自分たちの思いを表現します。そして、⑦では、創作活動全体を振り返り、自分の成長や地域の未来について考えます。すべてのユニットにおいてルーブリックを作成し、学力指標と関連づけて学力の伸長をアセスメント

トしています。

「最初は、食べられないような味だったけれど、試作を繰り返しておいしくなっていた」「自分たちが育てた食材で、新しいものをつくり出すことはおもしろい」「みんなで考えたものが形になり、世の中の方に知ってもらえて嬉しかった」などの児童たちの感想から、取組後の成長を感じます。

実際に授業を行った教員からは、「様々な教科と関連付けたカリキュラムマネジメントを行うことで学びが連続し、児童は多面的・俯瞰的に物事を捉えることができるようになった」という声が多く聞かれました。

今後の展望

本市のキャリア教育の体系は、まだ発展途上ではありますが、昨年度、中学校では命について考える防災学習として「減災行動プランづくり」に取り組むなど、一歩ずつ理念がたちになりつつあります。今後、自分自身だけではなく周囲の人や地域についても考え、未来に向けて実際に行動を起こせる人間の育成を目指して歩みを進めてまいります。

▼アンコンシャスバイアスとは？

私たちは何かを見たり、聞いたときに「無意識にこうだ」と思い込むことがあります。これを、「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」といいます。このアンコンシャスバイアスは、「相手」に対するものもあれば、「自分自身」に対するものもあります。

例えば、次のように思うことはあるでしょうか？

- 血液型を聞くと、「きっとこんな性格だ」と思うことがある
- 「男の子らしく」「女の子らしく」と思うことがある
- 「親が単身赴任中です」と聞くと、父親を思い浮かべる
- 乳がんは女性が罹患するものだと思う
- 挑戦する前から、「私はどうせムリ」と思うことがある

いかがでしたか？ 何か、思いあたることはありませんか？ どれもあてはまらないという人もいたかもしれませんが、ここにあげたものは、アンコンシャスバイアスになりうるごくわずかな事例です。私たちは、過去の経験や「見

社会と教育の 架け橋 思い込みと教育

「アンコンシャスバイアス」に気づくことの大切さ ～子どもたちの可能性が 広がることをめざして～

一般社団法人
アンコンシャスバイアス研究所
代表理事 **守屋 智敬**



2018年、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所を設立。企業・官公庁、小・中学校等でアンコンシャスバイアスに関するセミナーを実施。受講者は8万人をこえる。著書に、『「アンコンシャス・バイアス」マネジメント』（かんき出版 2019年）等がある。

▼小・中学校で 授業をはじめたきっかけ

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所は、国・地方自治体・企業など様々な団体からの依頼をうけ、経営者、管理職をはじめとした社会人を対象に、「アンコンシャスバイアスに気づこうとすることの大切さ」をお届けしています。

そのようななか、2021年にはじめて、小学生にアンコンシャスバイアス授業を届ける機会にめぐまれました。これは、小学校6年生を担当する先生から、「子どもたちに、アンコンシャスバイアス授業を実施してもらえないだろうか？」との相談をうけたことがきっかけです。授業後にもらった約100枚の感想文を読み、アンコンシャスバイアス授業は、「自

聞きしたこと」等に影響をうけて、無意識のうちに、きつと、こうだ」と思い込んでいることや、偏ったモノの見方をしていることがあるかもしれません。お伝えしたかったことは、アンコンシャスバイアスは誰にでもあり、日常にあふれているということです。



オンライン授業の様子。240人の児童は、クラウド上で意見を共有しながら、学びを深めた。
(写真：白百合学園小学校提供)

分も含めた一人ひとりを大切にしよう」といった心を育んだり、「SDGsのジェンダー平等、不平等を無くす、平和と公正、パートナーシップの重要性に気づくきっかけ」を提供したり、「自らの可能性を信じるキャリア教育」にもつながることを感じました。このことを機に、これまでに50校をこえる小・中学校での出張授業を提供しています。

▼アンコンシャスバイアス授業について

授業は、2回に分けて実施することを推奨しています(左表参照)。授業時間は、2回とも1コマずつ行っています。対象は小学校高学年以上です。

表 アンコンシャスバイアス授業の流れ

<1回目>「アンコンシャスバイアスとは何か?」を知る

- 導入：自分にもアンコンシャスバイアスがありそうだと感じる体験からスタート。
- 展開：「ステレオタイプ」「同調バイアス」等の認知バイアスをヒントに、「私には、どんなアンコンシャスバイアスがあるのだろうか?」を、言葉にしながら探します。
- 終末：用語にとらわれることなく、「これって、アンコン?」を合言葉に、気づこうとすることを大切にしたいと伝えます。
- ※アンコンは、アンコンシャスバイアスの略です

<宿題> (1～2週間：2回目の授業まで) 「私のアンコンシャスバイアス」を探す

<参考：子どもたちが見つけた事例>

- ・料理は女の人の方がやるものだというアンコンに気づいた
- ・人を見た目で判断していることに気づいた
- ・挑戦する前から、すぐ「どうせムリ」と言ってしまう
- ・看護師は女性、医師は男性と思い込んでいることに気づいた
- ・食わず嫌いもアンコンだと思った 等

<2回目> (1回目の授業から1～2週間後) アンコンシャスバイアスに気づくことの大切さ

- 導入：宿題（私のアンコンシャスバイアス）を共有します。
- 展開：「アンコンシャスバイアスに気づかずにいると、どんな問題につながるのか?」「気づくとどんなよいことがあるのか?」を考え、話し合います。
- 終末：アンコンシャスバイアスに向き合い続けるためのお願いとして、「決めつけない」「誰かと何かと比べない」「自分の可能性を信じよう!」「これって、アンコンを合言葉にしよう」を伝えます。

<感想文> (2回目の授業から1～2週間後) 感想文を書いて提出

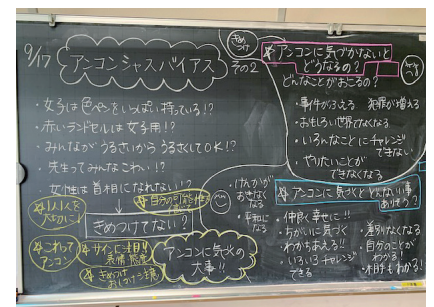


授業では発言が多く、話し合いも活発になっていく。
(写真：郡山ザベリオ学園中学校提供)

▼受講した児童・生徒の変化

全2回の授業を終了してから、1～2週間後に感想文を書いてもらいます。少し時間がたって感想文を書くことで、「アンコンシャスバイアスに気づいてからの変化や気づいてよかったこと」を振り返ってもらうことを目的としています。

授業を受けた児童・生徒からの変化の声をいくつか紹介します。多く届く声のひとつが、「一歩



小学校での2回目の授業の発問から対話を通して出てきた声。

踏み出したいと思った」です。例えば、「アンコンシャスバイアス」を知らなかったら自分の可能性を狭めるところだった」「夢をあきらめるのをやめた」「どうせムリと思わずに、まずは挑戦してみようと思った」等といった前向きなものです。

続いて多い声が、「自分の意見を言ってみようと思った」です。例えば、「みんなと違う意見だったとしても、頑張って言ってみようと思えるようになった」「これまで、まわりにあわせてばかりいる自分に気づきました」等、自らの言動や行動を振り返り、これまで抱えてきた思い込みへの対処を客観的かつ具体的に述べています。

その他、「友だちとの喧嘩が減った」「親にちゃんと自分の思いを伝えられるようになった」「ク

▼先生や保護者からの声

ラスのなかで、アンコンが合言葉となつて雰囲気がよくなった」等の声もあがっています。

教員研修や保護者講演なども実施していますが、学校によっては授業参観日にアンコンシャスバイアス授業を実施することもあります。子どもたちとともに、保護者や先生方がアンコンシャスバイアスを学ぶことの効果は大きいようです。保護者からも、先生からも「子どもたちへの決めつけや押しつけが、可能性を狭めていることに気づくことができてよかった」との声を多数いただきました。

▼子どもたち一人ひとりの可能性が広がることを願って

アンコンシャスバイアスに気づき、対処していくことは、子どもたちの可能性が広がっていくうえでとても大切だと思います。これからも、一人でも多くの子どもたちに、そして、子どもたちに関わる先生や保護者の方々に、「アンコンシャスバイアスに気づこうとするこの大切さ」をお届けしていきたいと思っています。

日本での学びをスリランカの未来へ生かしたい



ウヤン・ヘーワーゲー・ミヌラ
ギトウマル ジナダーサ

公益財団法人 守屋留学生交流協会
第11回倉敷市守屋奨学生

◆略歴◆

1992年 スリランカ コロンボ生まれ
2013年 コロンボ大学 入学
2017年 専門学校にて建築の資格を取得
2019年 コロンボ大学 卒業
2020年 NLP（神経言語プログラミング）
講座受講
2021年 倉敷芸術科学大学 留学生別科 入学
2022年 来日
2023年 倉敷芸術科学大学 留学生別科 卒業、
倉敷芸術科学大学大学院人間文化研究
科博士前期課程 入学

◆はじめにー日本留学のきっかけ◆

私の父はトヨタ自動車の経営理念に関心をもっており、経営に関する本などをよく読んでいました。また父は日本文化を尊重し、時間を守ることや、謙虚な姿勢でいること、与えられた時間内で仕事することなどを心がけていました。何よりも感心したのは、どれだけ遠くからでも何事においても、父が時間通りに現れることでした。私は

そのような父を見て育つなかで、日本に関心をいだくようになり、なかでも映画がきっかけで、武士と忍者の文化について興味を持つようになりました。

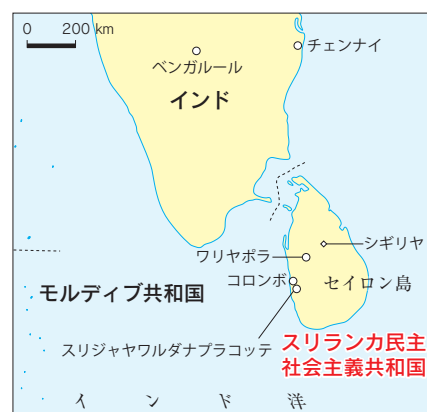
そのほかにも、幼少期から、日本の歴史を学び、文化について深く理解したいと願っていました。しかし、スリランカで学べる日本の歴史は、第二次世界大戦に関することに限定されていました。何かを学ぶ最良の方法は、その場所に行つて学ぶことだと思い、日本への留学を決意しました。スリランカのコロナボ大学で学士号を取得した後、留学前にまずは世界について見識を広げ、他者と協力して何かを成し遂げる経験が必要であると感じ、大学に行きながら取得した建築の資格を生かして、設計の仕事を始めました。

その後、2021年に倉敷芸術科学大学の日本語プログラムに応募しました。新型コロナウイルスの大流行のため、来日が一年遅れましたが、2022年から日本で学べるようになりました。留学生別科では、日本文化と日本語に触れること

◆スリランカと私の故郷◆

私がスリランカ出身であると言うと、多くの場合、「スリランカってどこにあるの?」と尋ねられます。一方で、紅茶の産地として知っている人も多いでしょう。イメージの通り、スリランカの人々はよく紅茶を飲みます。

スリランカは、日本の約6分の1、北海道の約80%の小さな島です。一年中暖かい気候ですが、中央部の山々の頂上周辺は涼しく、暮らしやすい環境です。スリランカは紅茶だけでなく、世界遺産の一つであるシギリヤロック、シナモンや美しいビーチでも有名です。スリランカ料理には辛いものと甘いものがあります。最も人気のある料理は「コットウ」です。これは、小麦粉や卵、野菜、





コットウ（筆者撮影）



スリランカの国旗

肉などをみじん切りにして和え、油で揚げたもので、外食の際によく食べます。また、誕生日や結婚式、正月など、特別な日には「ミルクライス」を食べます。これは、ココナッツミルクに米を加えたものです。味付けはさまざまですが、香辛料を入れ、辛くして食べるのが好まれます。

スリランカには約2500年の歴史があり、紀元前483年に、シンハラ王朝が建設されたことから始まりました。考古学的な発見から、約12万5千年前から先住民族がスリランカの地に住んでいたともいわれています。

スリランカの人々の大多数は仏教徒であり、シンハラ語を話します。スリランカで使われている主な言語はシンハラ語、タミル語、英語です。

スリランカの国旗は茶、黄、オレンジ、緑の4色で構成され、それぞれの色は仏教（黄）、ヒンドゥー教（オレンジ）、イスラム教（緑）を表し、民族・宗教の融和を象徴しています。また、右側には、ボー（菩提樹）の葉と剣を持つ獅子が描かれており、4枚のボーの葉は、仏陀の教えをそれぞれ表しているといわれています。剣を持つ獅子は、最初のシンハラ王がライオンの子孫であるという建国神話に基づくものです。スリランカ人が獅子のように勇敢で自信に満ちていることを示し

ているという説もあります。

私は、発展途上の小さな町であるワリヤポラに住んでいました。ワリヤポラとは、航空機が駐機された場所を意味する興味深い名前です。この町は、インドの叙事詩『ラーマヤナ』に登場するラーヴァナという王の支配下にあつたといわれています。その王が「ダドゥモナラヤ」という名前の24の航空機を持つっており、それを使用してスリランカだけでなく、当時、世界の9つの国を支配していたという言い伝えがあります。ワリヤポラには美しい自然と湖、田園風景が広がり、また自然災害が少ないこともあって、住むには安全な場所です。町の周りには多くの仏教寺院もあります。

スリランカでは中学・高校・大学に進学する前にそれぞれ試験があり、よい成績を取れば学費が無料の国立の学校に進学でき、大学卒業後の就職先の選択肢が広がります。そのため、よい成績を取ろうと多くの子どもたちが小学生の頃から塾に通い始めます。また、スリランカでは1月から新学期が始まりますが、入学式があるのは小学校と大学だけで、ここは日本との大きな違いです。



シギリヤロック（筆者撮影）
ダンブッラ地域に位置し、スリランカの
世界遺産の一つである。平地から200mも
の高さになる岩山の頂上に築かれた宮殿の
跡地。観光地としても有名だが、スリラン
カの人々にとっては身近な場所として親し
まれている。

◆大学院での研究について◆

日本は世界で最も高度な社会・経済システムを持つ国の一つですが、現在のように文化的・経済的發展を遂げるには、さまざまなリスクに直面し、それら乗り越えてきた歴史があります。

スリランカという発展途上国の国民として最も重要なのは、かつての日本人がどのような困難を乗り越えて現在のような發展を遂げたのかを学び、スリランカの發展のために貢献することだと思っています。そのため、私は修士課程において、日本人がこれまでに経験したリスクと対処法について研究したいと考えています。このトピックを選んだ理由は、かつて武士や平民であつた多くの人々が、明治時代以降、工場労働者や会社社員、経営者などの職業を選択し、それに伴って生活様式を変えていったこと、さらにその後、第二次世界大戦において多くの国民を失うという悲惨な戦後から今日のような經濟發展を遂げた背景に、強い関心を持ったからです。現在は指導教官と相談しながらテーマを絞り込んでいくところですが、特に、バブル經濟の崩壊後、日本の人々はどういうにして經濟を回復させてきたのか、また近年は人工知能の導入により、日本企業がどのような影響を受けているのかについて研究し、修士論文を書きたいと考えています。

研究を通して、日本が今後さらなる發展を遂げるためにはどのようなことを歴史に学べばよいのかを明らかにし、さらにそれらの知識をスリランカのような發展途上国に応用することで、日本とスリランカの未来に貢献したいと考えています。

子どもと、ともに



▲大学の先生から肥料の役割について詳しく教えていただきました。



▲いよいよ収穫です。長くて太い立派な伊敷長なすができました。薄紫の皮の色が特徴です。



▲自分たちで鍬を使って畑を耕し、畝づくりを行いました。



▲伊敷長なすを使ったピザづくりにチャレンジ。甘みがあり、チーズにも合います。

「伊敷長なす^{いしき}里帰りプロジェクト」を通して郷土を愛する心を育む

鹿児島県鹿児島市立玉江小学校

本校は、鹿児島市中心部の北側に位置し、創立145年、児童数787人、学級数33学級の大規模校である。近隣に中学校、特別支援学校、聾学校、高等学校、短期大学等がある文教地区に建つ。

本校では、令和3年度から第5学年の総合的な学習の時間に、郷土の伝統野菜である「伊敷長なす^{いしき}」の栽培活動を取り入れ、「伊敷長なす里帰りプロジェクト」という取組のもと、伊敷長なすの良さを知り、地域に広める学習活動に取り組んでいる。

●「伊敷長なす里帰りプロジェクト」とは

「伝統野菜って何？」という児童たちに、鹿児島大学の中野八伯技術専門職員から私たちの住む伊敷地区で伝統野菜・伊敷長なすが栽培されてきたことを教えていただいた。生産者が減少し、このままでは絶滅してしまうかもしれないことを知る。「自分たちが守っていこう」という意欲を高めた5年生。育てるだけでなく、広め、継承する「伊敷長なす里帰りプロジェクト」が始動した。

●伊敷長なすを育て、広げ、つなげよう

毎年ご指導くださる中野先生の話から「食べてみたい」という思いを強める子どもたち。6年生が前年の収穫後に種から育ててくれた苗を一人ず

つ引き継ぐと、早速、自分たちで自主的に畑の草取りを開始した。鍬を使って畑を耕し、畝を作り、マルチ（土の水分保持等の覆い）を張った。ゲストティーチャーの大学生に教えてもらいながら、自分の苗に名前を付け、丁寧に植えていった。

水やりや草取りをがんばり、生長も観察し、いよいよ収穫。料理のプロからなすの調理方法を教えていただいたり、パン作りの先生となすを使ったピザを作ったりした。児童たちは「野菜作りの基本や楽しさが分かった」「多くの伝統野菜の存在やその意味を知った」と学びを深めている。

さらに、パンフレットや壁新聞、紙芝居、映像にまとめて発表したり、伝統野菜作りに取り組む他校とTV会議で交流したり、活動を広げている。

●愛する郷土・地域とともに

子どもたちから出された課題に「流通の少なさ」があった。JAの方々の協力もあり、直売所や近所の公園でのバザーで苗や実の販売体験をさせていただいた。価格設定やポップの作成、販売準備等、子どもたちは積極的に意見を出し合って取り組み、自分たちが育てた伊敷長なすを買ってもらえた時の喜びを共有している。

階【きざし】

2024年1月16日発行 (No.50)

発行人：佐藤 清 発行所：株式会社 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 電話03-3262-4795(代)

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd. 2024 <https://www.teikokushoin.co.jp/>

Twitter ID : @Teikokushoin